

平成 17 年 9 月 26 日

企業会計基準委員会と国際会計基準審議会は会計基準の コンバージェンスに向けた共同プロジェクトの第二回会合を開催

9月23日、企業会計基準委員会（ASBJ）と国際会計基準審議会（IASB）は会計基準のコンバージェンスに向けた共同プロジェクトの第二回会合をロンドンで開催しました。この会合には、ASBJ から斎藤委員長、西川副委員長とスタッフが参加し、IASB からは Tweedie 議長と4人のボードメンバー及びスタッフが参加しました。

今年3月の前回会合に引き続き、相互理解を図るために、それぞれの会計基準の背景にある基本的考え方や概念フレームワークのほか、ヘッジ会計、資産の除去債務について意見交換を行いました。また、第一フェーズの検討テーマ5項目（棚卸資産の評価基準、セグメント情報、関連当事者の開示、在外子会社の会計方針の統一、投資不動産）について各々が検討状況を説明し、各基準のコンバージェンスに向けての進捗状況を確認しました。

ASBJ は、以下に言及しました。

- 在外子会社の会計方針の統一については年内に公開草案を出す方向で検討を進めていること
- 棚卸資産の評価基準については今年10月に論点整理を出す方向で検討を進めていること

また、IASB は、以下に言及しました。

- 関連当事者開示については、ASBJ からの指摘事項を反映したスタッフによる改訂提案を検討すること
- 棚卸資産の評価基準については、ASBJ からの指摘事項を検討すること
- 投資不動産については、米国財務会計基準審議会(FASB)とのコンバージェンス・プロジェクトの中で ASBJ からの指摘事項を検討すること

両者は、第一フェーズの追加項目として、金融商品の開示及び表示（IAS 第32号）の差異の1つである新株発行費を取り上げることで合意しました。また、無形資産についても、IASB との将来の議論のために、日本サイドで準備のプロジェクトを立ち上げることで合意しました。

両者は、この間の取り組みと成果を肯定的に評価し、今後も、会計基準のコンバージェンスに向けて、積極的な取り組みを継続することを再確認しました。

次回は来年 3 月に東京で開催する予定です。

今回の会合について、斎藤静樹 企業会計基準委員会委員長は、「欧州が日本基準を国際基準と大枠で同等であると評価したことは、日本基準を国際市場での基準間競争に直面させて、コンバージェンスをさらに進める推進力になるでしょう。われわれは IASB との共同作業を活用して、この流れを着実に前進させるつもりです。」と語っています。

David Tweedie 国際会計基準審議会議長は、「これまでの会合は、お互いの見解に対する両者の理解を深める非常に貴重な機会を提供しています。ASBJ との継続的な議論は、二つの基準のコンバージェンスとともに、最終的には両者を国際的にみてよりよい基準に導くものと確信しています。」と語っています。

問合せ先

企業会計基準委員会事務局 Tel 03 - 5510 - 2711 (代)